本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

カシオトロン 96

使用説明書

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±10秒以内
表　示　方　式：FE型液晶デジタル表示
表　示　内　容：通常表示＝時・分・秒（10秒・秒）・午前／午後
切替表示＝月・日・曜日　2月28日制オートカレンダー
ストップウオッチ表示
(13分まで計測可能「時・分計」として13時間まで利用可能)
デュアルタイム(別時計)表示
セ　ッ　ト　機　構：時刻セット機構　　ストップウオッチセット機構
カレンダーセット機構　デュアルタイム(別時計)セット機構
秒合わせ機構(±30秒クリア)
時差修正機構
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ウンチップC/MOS-LSI
使用電池及び寿命：酸化銀電池（UCC-396）1個
約15ヵ月（内部照明毎日1秒間5回点灯）電池別途販売

使用上のご注意

カシオトロンをいつまでも高精度でご愛用いただくため、下記の点を特にご留意ください。

(1) 極端に高い温度や、極端に低い温度条件下ではご使用にならないでください。機能が低下したり電池寿命を短くしたりする恐れがあります。

(2) 水が入りにくい構造になっていますが、精密な電子回路や部品を保護するために、入浴や海水浴、洗車時などの不確定な水圧が加わる恐れのあるときのご使用は避けてください。

(3) 通常の使用状態でのショックには耐えるよう設計されていますが、落としたり強い衝撃を与えますと故障の原因となりますので十分ご注意ください。

(4) この腕時計は、C/MOS-LSIや水晶振動子、それに液晶パネルなどの精密パーツで構成され組立てられていますので、時計の内部には絶対手をふれないでください。

(5) このカシオトロンを腕から外したり、長期にわたってお使いにならないときは……

a　寒冷地や夏場の直射日光が当る場所には放置しないでください。

b　水蒸気がたったり、たちこめるような湿気が極端に多い場所で長時間放置したり、保存しないでください。

c　消耗した電池を入れたままにしておきますと、故障の原因になります。長期間お使いにならないときは電池を抜くか、15ヵ月に一度電池を入れかえながら保存してください。なお、電池の出し入れは絶対にご自分でなさらないでください。

(6) ボタン操作は確実におこなってください。

(7) このカシオトロンに使用しているメタルバンドも汗やホコリでよごれます。汗をかいたときは、吸湿性の良い布などで水分を取り除いてください。また、ときどきは柔らかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどのお手入れをお願いします。(その際、時計本体には水がかからないようご注意ください。)

(8) 金側・金バンド仕上げの製品は長い間ご愛用いただくために以下のことにご注意願います。

a　金メッキの外観を良い状態で維持するために、汚れがめだちましたら、やわらかい布に水分を含ませ表面をかるく拭きあげてください。

b　汗をかいたときは、やわらかい布で汗を拭きとってください。(汗をかいたままにしておきますと、サビの発生の原因になります。)

C　腕から外して保管するときは、風通しの良い場所を選んで保管してください。(汗のついた時計を密閉された状態で保管すると、サビの発生の原因になります。)

(9) 定期的なパッキン交換を！

外部からの水分やチリ・ホコリの浸入を防ぐため防水パッキンを使用しています。ゴム製品のため長い間使用していますと、性能が劣化しますので、定期的な交換（2～3年を目安に）を行なうようお願いします。

電池交換について

最初の電池は工場出荷時に組み込まれているモニター用電池ですので約15ヵ月に満たないうちに寿命がきれることがあります。

電池が消耗しますと「内部照明のライトが点灯しなくなったり」「急に遅れが目立ったり」「表示が消えたり」「見にくくなります」このような症状があらわれたら電池交換を行なってください。

新しい電池とお取りかえいただきますとその後、約15ヵ月ご使用になれます。

電池交換は、精度や寿命、気密性の維持上必ずお求めのお店かお近くのカシオトロン取扱い店あるいは当社サービスセンターにお申しつけいただき当社指定のカシオトロン専用電池と交換してください。

カシオトロン専用電池以外の電池をご使用しますと時計の正常な働きをさまたげ、故障の原因ともなりますのでご注意ください。

液晶パネルの交換について

この時計には高品質のFF型液晶パネルを使用しておりますが、液晶はその性格上7年すぎますと、コントラストが低下したり、読みにくくなることがあります。その場合はお買いあげ店、またはカシオトロン取扱い店へ交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

このたびは、カシオトロンをお買いあげいただきありがとうございます。末永くご愛用いただくため、この説明書をよくお読みいただき正しくご使用くださいますようお願いいたします。

なお、ボタン操作は確実に行なっていただくのが望ましいのですが、もし、あやまったボタン操作を行なっても製品に障害を与えることは一切ありませんので、ご納得のゆくまで何回でもお試しください。

表示の見方と操作のしくみ

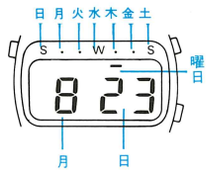


Ⓑボタン
押すごとに、「時刻表示」←→「ストップウオッチあるいはデュアルタイム」と切替わります。

Ⓛボタン
押している間、ライトが点灯します。

Ⓐボタン
押している間、カレンダー表示になります。

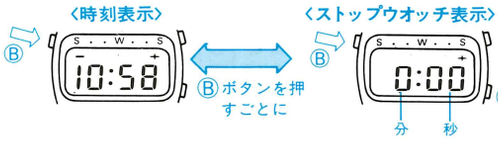
カレンダー表示



ストップウオッチの使い方

●ストップウオッチ表示にするには

時刻表示のときⒷボタンを押します。以後、Ⓑボタンを押すごとに時刻表示←→ストップウオッチ表示と切替わります。

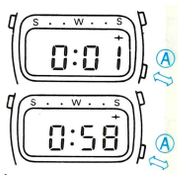


表示が0:00にならないときはⒶボタンを0:00になるまで押しつづけます。

●スタート/ストップ、リセット(0:00)のしかた

〈スタート〉Ⓐボタンを押す
(+が点滅してカウント開始)

〈ストップ〉Ⓐボタンを押す
(+が点灯してカウント停止)



〈リセット〉Ⓐボタンを表示が0:00になるまで押しつづける
カウントはつづきますが2秒後ぐらいに0:00になります

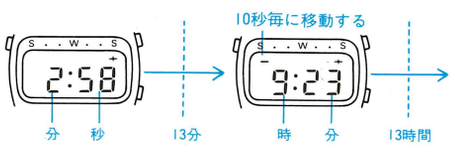
※ロスタイムがある場合
リセットせずに再スタート(Ⓐボタンを押す)すれば表示タイムに引きつづきカウントをはじめます。

●ストップウオッチ使用中に時刻を見たい場合

カウント中でも、停止中でも、Ⓑボタンを押せば時刻表示に戻ります。この間ストップウオッチは正常に働いています。

●計時可能時間と表示の変化

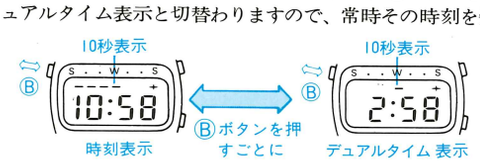
ストップウオッチは、13分まで「分・秒計時」それ以降は13時間まで「時・分計時」になります。



13時間をこえると再度0:00より自動スタート

デュアルタイムの使い方

デュアルタイム機能とは、 現在時刻の他に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。1度セットすれば、Ⓑボタンを押すごとに時刻表示↔デュアルタイム表示と切替わりますので、常時その時刻を知ることができます。



※表示の見分け方
10秒表示が連続して表示される。
→時刻表示
10秒表示が単独で表示される。
→デュアルタイム表示

●デュアルタイムに海外時刻などをセットするには

(1) 時刻表示のとき、Ⓑボタンを押すとデュアルタイム表示あるいはストップウオッチ表示になります。



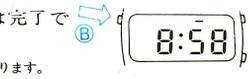
(2) このとき、Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押すと「時」が点滅します。



(3) Ⓐボタンを押すごとに「時」が進みますので合わせたい「時」にセットします。
※午後表示+は「12」をすぎると灯いたり消えたりします。



(4) Ⓑボタンを押すと点滅が止まりセットは完了です。 ※時刻表示の「分」「秒」が自動セットされます。
※このあと、もう1度、Ⓑボタンを押すと時刻表示に戻ります。



30分の時差のある地域(シンガポール・インドなど)の時刻セットのしかた

(3)の操作のあと、Ⓛボタンを押すと「分」が点滅しますのでⒶボタンで合わせたい「分」にセットし、(4)の操作に進みます。

ストップウオッチ機能とデュアルタイム機能はどちらか1つを選んでお使いください。例えば、デュアルタイム機能を使用中にストップウオッチ機能にすると、デュアルタイムの時刻は解除されます。

時刻・カレンダーの合わせ方

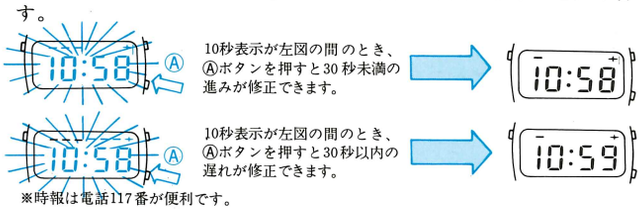
A「秒」の合わせ方

30秒以内の遅れ進みは以下のように簡単に修正できます。月に一度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと時計はいつも正確です。

(1) 時刻表示のとき、Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押すと表示全体が点滅します。



(2) 時報の「ポーン」に合わせてⒶボタンを押すと下図のようにピタリ合います。



※時報は電話117番が便利です。

B「時」「分」「月」「日」「曜日」の合わせ方

電池交換後など、時刻・カレンダーを新たにセットしなおすときは、**まず、Aの「秒の合わせ方」で「秒」を合わせたのち、**以下の順序でセットしてください。

(1) 時刻表示のときⒶボタンを押したままⒷボタンを押します。表示全体が点滅します。



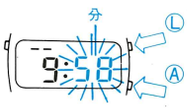
「時」のセット

(2) Ⓛボタンを押すと「時」が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに「時」が進みますので、合わせたい「時」にセットします。
※午後表示+は「12」をすぎるごとに灯いたり、消えたりしますので、午前/午後の指定をまちがえないようご注意ください。



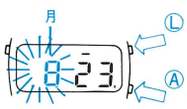
「分」のセット

(3) 「時」のセットのあとⓁボタンを押すと「分」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「分」にセットします。



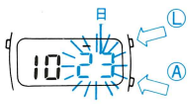
「月」のセット

(4) 「分」のセットのあとⓁボタンを押すと「月」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「月」にセットします。



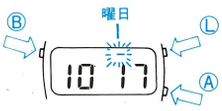
「日」のセット

(5) 「月」のセットのあとⓁボタンを押すと「日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「日」にセットします。



「曜日」のセット

(6) 「日」のセットのあとⓁボタンを押すと「曜日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「曜日」にセットします。そのあとⒷボタンを押すと点滅は止まり、時刻表示に戻ります。



時刻・カレンダー合わせのしくみ

- Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押し、表示全体を点滅(「秒合わせ」の状態)させたあと、Ⓛボタンを押すごとに以下の順で点滅する個所が移動します。

時 → 分 → 月 → 日 → 曜日 → 時

- どの個所も単独に修正できますので、Ⓛボタンで修正したい個所を選び、Ⓐボタンでセットします。
- セットが終われば、どの個所からでもⒷボタンを押すと時刻表示に戻ります。

※修正中も時刻は正確にカウントを続けています。

こんなときには

- 操作ミスなどで時刻表示以外の表示になり、どうしてももとに戻らないとき。 ⇨ 以下の方法で時刻表示に戻します。
- セット中に、どの操作まで行ったかわからなくなったとき。 ⇨ 以下の方法で時刻表示に戻し、初めからセットし直します。

〈時刻表示への戻し方〉

1. Ⓑボタンを押します。
2. Ⓐボタンを押している間、カレンダー表示になれば時刻表示に戻っています。もし、ならないときは、1.の操作をくり返します。

